

平成30年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

<h4>1 一人一人の児童生徒の尊重</h4> <p>学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。</p>	<h4>2 友達への思いやり</h4> <p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p>	<h4>3 道徳・心の教育の充実</h4> <p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）</p>
<p>「豊かな心をはぐくむ教育の推進」について、市平均との比較で、教職員は④の割合がどの項目も15ポイント以上高く年々上昇傾向である。一方、保護者は②の割合が全項目で数ポイント低い。また、児童の「一人一人の尊重」で④の割合が10ポイント低い。他は児童や保護者の④の割合は、市平均や経年変化を見ても大きな差異や変化は認められない。このことから、教職員は毎週の児童理解の時間確保や道徳の研修等が意識向上につながっていると思う。一方、児童が成就感や見守られ感を実感できる取組をするとともに、保護者への発信も更に工夫していきたい。</p>		

②確かな学力を育む教育の推進

<h4>4 意欲的な学習態度</h4> <p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p>	<h4>5 授業力向上</h4> <p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<h4>6 ICT活用</h4> <p>先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。</p>
<p>「確かな学力を育む教育の推進」について、すべての項目において三者とも経年変化では上昇している。特に、教職員の伸びは大きく市平均との比較でも高い。これは、校内研修で算数を中心とした授業力向上に努めている成果が出ているとともに電子黒板等情報機器の導入も大きいと思われる。しかし、児童の「授業力向上」の項目で市平均と比べて④が8ポイント少なく、②が8ポイント多い。このことから、児童が「わかりやすい」と感じる授業づくりに個人差が大きく、課題があることが分かる。今後は、個に応じた指導のあり方や成就感をもたせる指導の工夫にも力を入れて研修を推進していきたい。</p>		

③健やかな体を育む教育の推進

7 健康づくり

子どもは、好き嫌いをなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。

この項目に関しては、市平均との比較や経年変化を見ても差異や変化は大きくない。しかし、他の分野に比べて三者とも④の割合が極端に少ない。今後、健康づくりについて、啓発の必要性を痛感する。

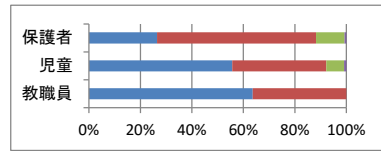
<h3 style="text-align: center;">①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実</h3> <h4>8 児童生徒理解</h4> <p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとして努めていると思いますか。</p>	<h3 style="text-align: center;">②特別支援教育の推進</h3> <h4>9 いじめや問題への対応</h4> <p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p>
<h4>10 学校の支援体制</h4> <p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>	
<p>「相談支援体制や特別支援教育の推進」については、市平均と比較して、「いじめや問題への対応」の項目で児童の④の割合が15ポイント低く、保護者の②の割合が5ポイント低い。一方、教職員の「特別支援教育の推進」の項目で④の割合が12ポイント高い。他は、市平均との比較や経年変化で大きな差異や変化は見られない。このことから、全職員で児童の支援について共通理解や実践を行っていることで、職員の意識は高いと思われる。今後は、教育相談の充実や問題発生時の早期対応、カウンセリング研修等に尽力して、児童や保護者の安心感を高めていきたい。</p>	

<h3 style="text-align: center;">①子どもたちの身近な安全対策の充実</h3> <h4>11 安全と事故防止</h4> <p>学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。</p>	<h3 style="text-align: center;">②最適な学習環境の整備</h3> <h4>12 施設・設備の安全管理</h4> <p>学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。</p>
<p>「安全と事故防止」では、教職員の④の割合が高い。経年変化では、児童と教職員の④の割合が年々上昇している。今後も、交通安全教室や防災教育、保護者や地域への啓発等に力を入れていきたい。</p>	<p>「施設設備の安全管理」では、保護者や児童が教職員に対して②や①の割合が多い。今後、定期的な安全点検を確実に実施するとともに、補修や施設設備の整備や更新にも力を入れていきたい。</p>

③家庭・地域社会との連携強化

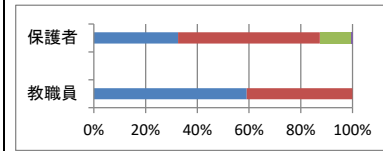
13 教育方針・目標の理解

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



14 家庭や地域との連携協力

子どもは、学校で自ら進んであいさつをしていると思いますか。

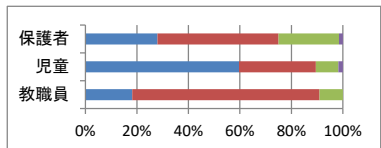


「家庭や地域との連携強化」については、市平均と比べてどの項目も教職員の④の割合は高く、経年変化も上昇している。他は大きな差異や変化はない。しかし、教職員と、保護者や児童との意識の差が大きい。今後、職員間で学校教育目標や保護者等との連携方針について共通理解するとともに、学校の取組について、一方的な発信にならないように、PTAや児童会とも連携して学校教育活動を進めていきたい。

⑧本校の教育

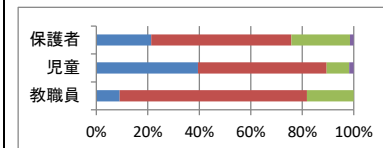
15 進んで行うあいさつ

子どもは、学校で自ら進んであいさつをしていると思いますか。

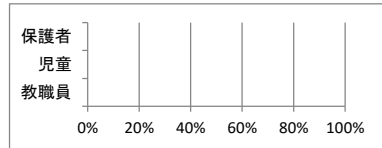


16 話を聞く態度

子どもは、学校で相手を見て、最後まで話を聞いていると思いますか。



17



「本校の教育」については、経年で大きな変化は見られない。両方の項目で、児童の頑張りに対して職員や保護者はそれを実感していない。これは、目標が抽象的で保護者だけでなく教職員にもとらえにくくなっているためだと思われる。今後、この2項目の観点を段階的に具体化して、スモールステップにすることで児童に達成感を実感させるとともに、職員間での共通理解や共通実践、保護者への啓発にもつなげ、児童の頑張りや成長を3者で共有することができるような雰囲気づくりに努めていきたい。

来年度の具体的な取り組みについて

全体的に見て、教職員の意識が年々向上してきており、市平均と比較しても高い傾向にある。今後もこの前向きな気持ちを維持しつつ、児童や保護者とも共有可能な取組を進めていく必要がある。学校評価から考えられる来年度の取組は以下のとおりである。

- 「豊かな心を育む教育の推進」では、児童理解や道徳の研修等を継続し、児童が成就感や見守られ感を実感できる取組や保護者への発信を工夫する。
- 「確かな学力を育む教育の推進」では、個に応じた指導のあり方や成就感をもたせる指導の工夫について更に研修を深める。
- 「健やかな体を育む教育の推進」では、健康づくりの意義や目的、学校や児童の取組や成長の様子について保護者や地域への発信を工夫する。
- 「相談支援体制の充実」では、児童や保護者の安心感を高めるために、教育相談の充実や問題発生時の早期対応、カウンセリング研修等に尽力する。
- 「安全対策の充実」では、交通安全教室や防災教室の継続実施、保護者や地域への啓発とともに、地域での児童の見守り体制の構築等にも力を入れる。
- 「最適な学習環境の整備」では、定期的な安全点検の確実な実施、課題のある設備等の補修や整備、更新にも力を入れる。
- 「家庭・地域社会との連携強化」では、学校目標や保護者等との連携方針について職員間で共通理解するとともに、学校の取組についての発信が一方的にならないように、PTAや児童会にも主体的に関わってもらえるような工夫をする。
- 「本校の教育」では、「あいさつ」と「話の聞き方」の2項目を段階的に具体化して、児童に達成感を実感させるとともに、職員間での共通理解や共通実践、保護者への啓発にもつなげ、児童の頑張りや成長を3者で共有することができるような雰囲気づくりに努める。

学校関係者評価

今年度は、年3回の学校評議員会をもち、その中で学校関係者評価を行っていただいた。

市学力テストが上がったのは、「授業力向上」「ICT活用」の項目で教職員自身の評価が年々上がっており、自己研鑽の意識高揚が好結果を生んだと考える。ただ、「いじめや問題対応」の項目で、児童の「そう思う」の評価が、昨年度に比べて20ポイントも下がっていることは、真摯に受け止め、改善策を講じなければならない。また、「挨拶」の項目も、昨年度との比較では児童・教職員共に10ポイント以上も下がっており、心に届く指導を考える必要がある。